

Unauthorized Translation (RIETI) / 仮訳 (RIETI)

無形資産投資のための政策環境：我々はクロスカントリー分析から何を学べるか

RIETI—一橋大学グローバル COE シンポジウム用に作成されたコメント、2009年10月2日、エリック・バルテルスマン教授（アムステルダム自由大学）

- これまでの発言者は、全体の生産性（成長・水準）のための企業レベルの無形資産投資の役割にスポットを当てた
 - 企業は、予想される将来の生産・売上げ・利益を増加させるために無形資産投資を行う
 - 一般に、無形資産投資は固定費の構成要素を持っている：将来の規模拡大が重要である
 - 企業レベルの無形資産投資の水準およびその推進要因について、利用可能なハードデータはあまり多くない
 - 無形資産投資のパターンは、企業間で不均一になる可能性が高い
- 政策立案者は、どのような政策が最適な無形資産投資率を促進するのかをいかに決定すべきか（企業レベルと全体）
 - 企業に尋ねることはあまり有益ではない：企業は所与の政策や経済環境を最適化するのであって、一般均衡や社会福祉の問題に対する明確な考えは持っていない
 - 政策実験は難しく、良くて企業行動に対する直接的な効果の推定値が得られる程度で、全体の効果は把握できない
 - 時間の経過に伴う政策の変化の効果は評価するのが難しい：それ以外の多くの顕在変数や潜在変数も変化しているため、我々が観察できるのは企業の成果の「前」と「後」の違いだけである。
 - （余談：最適な無形資産投資率は概念的に難しい。その理由は、溢出効果、権利の侵害、輻輳、事業の盗用などがあるため）
- 企業レベルの成果のクロスカントリー分析は、（それぞれ別の時間に別の場所で変化が起きることを考えると）政策を評価するための「実験室」を提供するかもしれない
 - 理論：政策が企業レベルの無形資産投資に影響を及ぼすと考えられるメカニズムとはどのようなものか。
 - データ：どの観察可能な要因が、企業または産業レベルで無形資産投資に関する情報を提供するか。どの観察可能な要因が、望ましい成果に関する情報を提供するか。企業レベルのデータセットの中のどの指標が、理論から予想される変化と一致するか。
- 理論とデータは、無形資産投資のレベルで企業の成果の変化性が高まる方向を指している
 - IT投資の多い企業と少ない企業との利益の違い（ブリニョルフソンその他、2009年）
 - 企業の売上増加の変化は、ブロードバンドの普及率が高い産業の方が大きい（バルテルスマン、2008年）
- 高リスクの無形資産投資戦略に着手している企業にとって、退出する選択肢は有益である
 - （政策によって誘導される）出口コストの各国間の変化および時間的変化の度合いは、危険度およびリスクを伴う試みに配分される資源と負の相関関係がある。（バルテルスマン、ペロッチェ、スカルペッタ、2008年；バルテルスマン、ゴージェ、デ・ウィンド、2009年）
 - 「公平な条件」は各企業にわたって資源配分を改善するが、より重要なことは、それが不均一な投資戦略を持つ各企業の適切な事前選択を提供することである。